

(別添4)

【かほく市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

1人1台端末とクラウド環境を活用し、他者と協働しながら主体的に学ぶ児童生徒の育成を目指す。授業では、ICTを活用した学習活動を積極的に取り入れ、各教科の特質に応じてICTを適切かつ効果的に活用しながらねらいに迫る。多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、個々の理解の程度や関心に応じた学びの実現のため、これまでの教育実践とICTを組み合わせ、児童生徒が自らの学びを調整しながら学習を進めていくことで、自立した学習者の育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度に小中学校にChromebookを1人1台端末として整備するとともに、校内LANの整備やアクセスポイントの増設などを行った。また、ICT環境の整備に加え、市教育委員会では、GIGA校内研修推進リーダーを対象としたGIGAスクール対応研修会を開催し、各校の実践紹介や中学校区毎に情報交換や協議を行ってきた。

令和3、4年度には、小中連携を図りながら、実践研究に取り組む地域として、高松中学校校区を指定し、実践的な研究の推進を図り、その効果を市内の小中学校へ普及・啓発した。

市内全小中学校では、ICTを活用した学習活動の充実を図り、各校の取組について校区ごとに情報交換の場を設定した。「小中連携の日」には、各校区でICT活用場面の授業公開、意見交流会を行ったことで、1人1台端末の活用の学校間差や教師間差を解消することができた。

また、校務におけるICT活用については学校間差があり、活用場を増やすために、具体的な活用場面や活用方法についての情報共有などに取り組んでいく。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的な活用

1人1台端末を活用した授業実践が積極的に行われており、令和6年度全国学力・学習状況調査の質問調査からは、1人1台端末の活用に関する質問に肯定的な回答をする児童生徒の割合が全国や県の平均を上回っている。また、授業以外の場面での日常的な活用も進んできており、児童生徒の1人1台端末の活用スキルの高まりが見られる。今後は、家庭学習等における1人1台端末の活用の一層の充実を図っていく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

個別最適・協働的な学びの充実に向けて、児童生徒が自分の理解度や学習進度に合った方法を選択し、主体的に学びを進めることができる場面を設定した授業づくりに取り組んでいる。令和6年度からは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実推進事業として、推進校を指定し、1人1台端末やクラウド環境を活用した授業公開を行い、実践の成果を市内の小中学校へ普及・啓発しており、令和7年度も事業を継続して行う。

(3) 学びの保障

不登校の児童生徒が学びたいと思った時に学べる場所を確保するため、市内全小中学校に校内教育支援センターを設置し、落ち着いた空間で自分のペースで学習・生活ができる環境を整備した。また、児童生徒や保護者の多様化するニーズに対し、デジタルドリルやオンラインツールを活用するなど、学校の実態に応じた対応ができるよう、1人1台端末環境を引き続き維持する。